

講義名	ファッション心理学		
科目区分	学部専門科目		
担当教員	森上 幸夫		
開講期・曜日・時限	前期 金曜日 3時限		
	2014年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 / 2014年度 サービス産業学部 観光学科 / 2014年度 総合政策学部 総合政策学科 / 2014年度 商学部 商学科 / 2013年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科 / 2013年度 サービス産業学部 観光学科 / 2013年度 総合政策学部 総合政策学科 / 2013年度 商学部 商学科 / 2012年度 サービス産業学部 サービスマネジメント学科		
履修開始年次	2年生	単位数	2
		講義コード	53040

主題と概要

ファッションという概念は様々な生活レベルのモノやコトをあらわしている。個人の装いや趣味にはじまり文化的な暮らしや社会的行為にいたるまで「ファッションを科学する」対象となっている。このような生活に根ざしたファッションのモノやコトは、欲求、自尊心、他者比較といった心理的機制と大いに関連している。本講義では、ファッションを流行現象、被服行動、化粧行動などの観点からとらえ、それに関する心理的機制の解明を試みる。

到達目標

ファッション心理学の講義は、流行現象、被服行動、化粧行動の3つの領域を検討することを目的に、関連領域の業績とあわせて、その調査結果あるいは実験結果の紹介をおこなう。それぞれの領域の問題について多様な視点から把握を試み、その解決について社会的な観点から合理的かつ客観的に考察できる力を修得することが目標である。

提出課題

毎回、講義内容に対する理解度確認のための課題提出を求める。

評価の基準

毎回、出席を確認し、講義内容の理解度を確保するための課題をおこなう。また中間課題として、それまでの講義内容を要約したレポート課題（試験形式）を実施する。期末には課題（テストあるいはレポート）を実施する。評価は、出席、毎回の課題、中間課題、期末課題を総合的に判断する。評価における割合は、「出席点」が20%、「毎回の課題」が20%、「中間課題」が30%、「期末課題」が30%である。

履修にあたっての注意・助言他

講義では必ずノートをとること、課題・レポートの回答は自らの頭で考え、自らの言葉で述べたものであることを求める。また、講義内容については常に疑問をもち、興味・関心のある事柄は講義外においても考え続け、関連する文献・情報を手に入れようとする態度が大切であるとする。

教科書

.使用しない。

プリント資料及び参考文献

なし

授業計画

- 1.ファッション心理学への導入1 「ファッション心理学とは何か」
- 2.ファッション心理学への導入2 「ファッション心理学の課題」
- 3.流行現象1 「流行の定義と特徴」
- 4.流行現象2 「流行の過程と個人的特性」
- 5.流行現象3 「流行のケース研究」
- 6.被服行動1 「被服研究の歴史」
- 7.被服行動2 「被服の傾向と個人的特性」
- 8.前半のまとめと中間課題 「授業理解の確認」
- 9.被服行動3 「被服と自己要因」
- 10.被服行動4 「被服と社会的影響」
- 11.化粧行動1 「顔の機能と意味」
- 12.化粧行動2 「化粧の分類と特徴」
- 13.化粧行動3 「化粧の個人的影響」
- 14.化粧行動4 「化粧の社会的影響」
- 15.ファッション心理学のまとめ 「授業内容の要約」

予習・復習

「1回目と2回目の授業後に各3時間の復習」、「3～5回目の授業前に関連する資料や文献を用いた各2時間の予習、および授業後に各2時間の復習」、「6回目と7回目の授業前に関連する資料を用いた各2時間の予習、および授業後に各2時間の復習」、「8回目の授業前にそれまでの授業内容の要約作業4時間、および課題内容についての2時間の復習」、「9回目と10回目の授業前に関連する資料を用いた各2時間の予習、および授業後に各2時間の復習」、「11～14回目の授業前に関連する資料を用いた各2時間の予習、および授業後に各2時間の復習」、「15回目の授業前にそれまでの授業内容の要約作業4

備考

なし